

日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

PHOTO REPORT

角膜カンファランス2018 体験記

角膜カンファランス2019に
ようこそ

学術奨励賞受賞者
喜びのコメント



日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

Vol. 22



3… 理事長挨拶

筑波大学
大鹿哲郎

4… 角膜カンファランス2018

(第42回日本角膜学会／第34回日本角膜移植学会)を主催して

広島大学
近間泰一郎

PHOTO REPORT

**5… 角膜カンファランス2018
学会レポート**

広島大学
井之川宗右

**8… 角膜カンファランス2019に
ようこそ**

京都府立医科大学
外園千恵

**9… 角膜カンファランス過去開催
一覧表／**

学術奨励賞受賞者一覧表

**11… 学術奨励賞受賞者
喜びのコメント**

順天堂大学
猪俣武範
慶應大学
内野裕一

**13… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞
1994～2018年度受賞者一覧表**

**15… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞者
喜びのコメント**

東京医科大学
成松明知 (2018年度 内田賞受賞)
山形大学
難波広幸 (2018年度 北野賞受賞)
同志社大学大学院生命医科学研究科
福井佑弥 (2018年度 眞鍋賞受賞)

18… 日本角膜学会 会則

19… 理事会／評議員会議事録など



理事長挨拶

筑波大学
大鹿哲郎

角 膜学会年次報告書 Vol. 22をお届けします。

2018年にはまず、近間泰一郎先生(広島大学)を会長として、角膜カンファレンス2018(第42回日本角膜学会、第34回日本角膜移植学会)が2月15日～17日の日程で開催されました。発表演題数231題(一般講演58題、ポスター173題)、参加人数1,090名と非常に盛況な学会でありました。越智光夫先生(広島大学学長)の特別講演「運動器の再生医療」は、整形外科領域における再生医療の発展、とくに基礎研究から臨床応用、そして保険収載に至るまでの道のりに関する素晴らしい講演で、大いに感銘を受けました。アスレチック大会は、ホテルの廊下や会議場に17台の卓球台を並べ、ラケットの代わりにシャモジを使うという、実によく考えられた催しで、参加者も観衆も大いに盛り上がっていました。主催の近間先生および広島大学眼科医局の先生方、準備は大変だったと思います。ご苦労様でした。そして大盛況、おめでとございました。

4月には隔年の診療報酬改定があり、角膜関係では、前眼部三次元画像解析が新規に採用されました。本技術は先進医療で評価が続けられてきたものであり、2年前には惜しいところで保険採用にならなかったのですが、今回は無事、先進医療を卒業して保険診療に導入されることになりました。ただし、適応疾患が非常に限定されており、「急性緑内障発作を疑う狭隅角眼又は角膜移植術後の患者」に限られています。先進医療の際に認められていた角膜ジストロフィ、角膜白斑、角膜変性、角膜不正乱視、水疱性角膜症、円錐角膜への適応は見送られました。次回の改定で適応が拡大されるよう、角膜学会から要望を出したいと思います。

コントラスト感度検査も今回、新規に保険収載となりました。視機能を多面的に検査する方法が保険で認められたことは非常に素晴らしいことです。しかし、適応が水晶体再建術前後に限られたことは、若干残念です。また、同時に申請していた実用視力は、今回採用が見送られました。これについても次回以降の課題となります。

角膜学会が毎年選出している学術奨励賞は、猪俣武範先生(順天堂大学)「制御性T細胞を用いた角膜移植における新規免疫抑制療法のための研究」と内野裕一先生(慶應大学)「ドライアイにおける眼表面グライコカリックスバリアの変化」に授与されました。いずれも基礎研究の段階ですが、臨床応用に向けたこれからの発展が期待されます。

年が明けるとすぐに、角膜カンファレンス2019です。冬の京都で、熱い議論を交わしましょう。

角膜カンファランス2018

(第42回日本角膜学会／第34回日本角膜移植学会)

を主催して



広島大学
近間泰一郎

2018年2月15日～17日の3日間、グランドプリンスホテル広島で角膜カンファランス2018(第42回日本角膜学会総会／第34回日本角膜移植学会)を広島大学の主催で開催させていただきました。

学会ポスターにお示しいたしました“的に刺さる3本の矢”は、毛利元就が説いた「3本の矢の教え」になぞらえ、この角膜カンファランスを通じて基礎研究、臨床研究、所属機関を越えた交流が活発になること(チームジャパン)を意識したもので、「結集！角膜の神秘を科学しよう。」をテーマにいたしました。

合計231題もの多数の演題をいただきました。どの演題も興味深いものばかりで、会長の独断も一部ありましたが58題を一般口演に、173題をポスターに採択させていただきました。一般口演はメイン1面、サブスライド2面を用いて英語と日本語併記で行いました。一般口演の演者の先生にはお手間を取らせてしまいました。講演会場を一つにすることで一般講演の演題数が少なくなるという問題はあるものの、角膜カンファランスならではの一体感と活発な議論ができたものと感じております。また、ポスター講演では筆頭演者の先生には2日間連続でポスターの前にお立ちいただき、ご自身のお仕事を参加者に解説していただくことにいたしました。ご負担を増やすことになりましたが、直接演者の先生と議論する時間が増えたことで、横のつながりの広がりにも寄与できたものと思っています。

シンポジウムは、「発生からみた再生医療」、「光エネルギーを用いた角膜疾患治療」の二つで、いずれも先頭を走っている先生方にご講演いただき、現在の立ち位置を知るとともに、これからの発展を期待せずにはいられない素晴らしいものでした。招待講演では、Cincinnati大学のKao教授より角膜の発生の基礎についてお話いただきました。また、特別講演では広島大学学長の越智光夫先生に運動器の再生医療について、保険診療に収載されるまでの道のりを講演していただきました。いずれも、非常にインパクトがあるお話で感銘を受けました。

アイバンクセッションにも多くの先生方にご参加いただきました。角膜移植の基本となる手技を学ぶまたとない機会ですので、これからもより多くの先生方に参加していただくため

に継続しなければならないと思います。

また、本学会の特色のひとつであるアスレチック大会では、「広島風温泉的卓球大会」を開催し、1時間ですべての対戦を終了するという少々タイトな条件でしたが、井之川事務局長が睡眠時間を削って作成した対戦表のおかげで大きなトラブルもなく時間内に終了しました。懇親会では、ホットポスターアワードおよびアスレチック大会の表彰式以外は広島を代表するソウルフードを楽しんでいただき、研究者としてあるいは友人としての輪が少しでも広がったのであれば望外の喜びです。

幸い天候にも恵まれ、1,090名に上る多数の方々にご参加いただきました。素晴らしい講演やポスター発表により活発な討論が繰り広げられ、とくに大きな問題もなく盛会の裡に全日程を終えることができました。

グランドプリンスホテル広島での開催で、一つの会場ですべてが完結する学会を目指し準備しました。結果的には、移動距離も少なくホテルならではのホスピタリティも相まって、参加された方々の評判も上々でした。

今回の角膜カンファランスは、広島では初めての開催でした。広島県眼科医会、広島大学眼科同窓会から多くのご支援をいただきました。初めて参加した角膜カンファランスを「楽しく勉強になる学会」と評してくださった広島県内の先生もおられ、大変嬉しく思いました。本学会の準備ならびに運営に関しましては、不行き届きの点多々ありましたことと存じますが、何卒ご寛容のほどお願いいたします。最後になりましたが、今回の角膜カンファランス開催につきましては、日本角膜学会、日本角膜移植学会の皆様のご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

角膜カンファランス2018学会レポート

広島大学
井之川 宗右

はじめに

2018年2月15日(木)～2月17日(土)にかけて第42回日本角膜学会総会・第34回日本角膜移植学会をグランドプリンスホテル広島におきまして主催させていただきました。このような名誉ある

機会を賜わり、事務局を代表して日本角膜学会、日本角膜移植学会の会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

昔の角膜カンファランスにあった合宿のようにみんなで勉強をしたいという学会長の希望で、街の中心部から少し離れたところを会場とさせ

ていただきましたが、参加者の皆様には移動などでご苦労をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

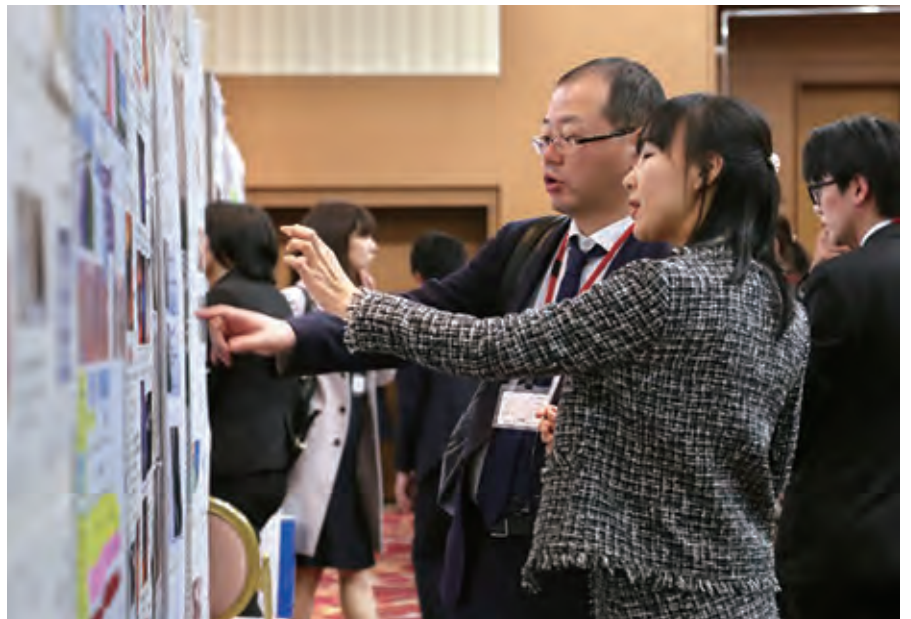
学会の様子

一般演題は口演58題、ポスター173題と昨年よりはポスターが多くなりました。参加者みんなで勉強し考えたいという角膜カンファランスのスタイルで一会場のみの直列とさせていただきました。メイン会場を大きくしたため、スライドもメインの日本語とメイン同等のサブスライド2面を英語で用意させていただきました。朝の口演から多くの先生方に会場へ足を運んでいただいたため、スタートから閑散とするのではなく活発な討論が飛び交う場になっておりました。ポスター発表では、十分なスペースが用意できなかったため、討論時間の会場が例年より混雑しておりましたが、その分各所で熱い討論や情報交換が繰り広げられていました。口演会場では質問を躊躇してしまう若い先生が熱心に質問しており、よい機会になったと思います。ポスター賞は、眞鍋賞が福井佑弥先生(同志社大)の「ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討」、内田賞が成松明知先生(東京医大)の「角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討」、北野賞が



難波広幸先生(山形大)の「乱視ベクトル解析と10年間の経時変化:山形県コホート研究(舟形町研究)」にそれぞれ決定しました。表彰に至らなかった発表も素晴らしいものばかりで、多くの演題を登録していただきありがとうございました。また学会長の一存で作られた参加者全員で選ぶホットポスターアワード2018は、江戸彩加先生(広島大)の「広島大学病院での角膜移植術の検討」に決まりました。身内からの選出になり申し訳ありませんが、皆様ご投票ありがとうございました。

発生からみた再生医療のシンポジウム1では、前半に「現状」として、西田幸二先生と小泉範子先生にオーガナイザーをお願いし、奥村直毅先生と大家義則先生に講演していただきました。後半の「基礎研究」では、榛村重人先生と雑賀司珠也先生にオーガナイザーをお願いし、川北哲也先生、北澤耕司先生、林竜平先生、羽藤晋先生、岡田由香先生に各組織の再生医療に向けた研究について詳しく講演していただきました。最前線の医療についていくための



ポスター会場

情報が盛り込まれており、大変勉強になりました。

光エネルギーを用いた角膜疾患治療のシンポジウム2では、宮田和典先生と神谷和孝先生にオーガナイザーをお願いし、稗田牧先生、神谷和孝先生、加藤直子先生、宮田和典先生、末岡健太郎先生にそれぞれのレーザーなど光エネルギーを用いた治療の最新情報を講演していただきました。臨床において非常に役立つ情報をアップデート

できたと思います。

招待講演では、Winston W-Y Kao先生に「Cell Lineage of Ocular Surface Tissues」の講演をしていただき、特別講演は、広島大学学長の越智光夫先生に「運動器の再生医療」を講演していただきました。

アスレチック大会と懇親会の様子

アスレチック大会といえば角膜カンファレンスの華ですが、そのために荷物が増えているのも事実です。実は当初、学会の時間と経費と参加者の準備に負担のかかるアスレチックをなくしてしまおうという案も出たのですが、それらの難題をクリアできたのが学会会場での卓球大会でした。廊下や会場に17台もの卓球台を並べることを許可してくれたホテルに感謝しかありません。143名もの方が参加してください、各所で歓声が聞こえておりましたのでホッとしました。また広島らしさを少しでもつけたいと角膜カン



メイン会場



広島風温泉的卓球大会



圧勝の筑波大学

フランスのロゴを入れた広島名物の宮島しゃもじをラケット代わりに使ってください、お土産として持って帰っていただきました。好評をいただき安心しております。普通のラケットとは異なる感覚のため練習しても差がつかないと自負しておりましたが、万全の準備をされた筑波大学に団体戦の優勝と準優勝、そして個人戦の優勝(高橋尚子先生)を勝ち取られるという圧勝で幕を閉じました。また団体戦3位は岩手医大、個人戦準優勝は五十嵐勉先生(日本医大)、3位は白石敦先生(愛媛大)でした。皆様、お疲れ様でした。

懇親会では、ポスター賞の発表とアスレチックの表彰のみとさせていただきましたが、残った時間で我々が自信をもって用意した広島の食をご堪能いただけたかと思えます。



懇親会の牡蠣

最後に

この度は、1,090人もの先生方にご参加いただき誠にありがとうございました。私自身は、専門学会とはいえ全国学会の事務局長をさせていただくのは初めてで、一所懸命やりましたが、至らないことも沢山あったと思い、この場を借りてお詫び申し上げます。旧知の先生からは多くのお褒めの言葉をいただき安堵しております。また並行して開催しておりましたアイバンクセッションも運営しておりましたが、多く

の先生方に足を運んでいただき誠にありがとうございました。広島という土地が、そして広島で開催された角膜カンファランスが、皆様のなかで少しでも思い出として残っていただければ本望です。

最後になりますが、学会長、広島大学医局員一同とともども、ご参加いただきました先生方、ご協力いただきました企業関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(文責 井之川宗右)



集合写真

角膜カンファランス2019に ようこそ

この度、第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会を2019年2月7日(木)～9日(土)の3日間、ウェスティン都ホテル京都におきまして、角膜カンファランス 2019 として開催する運びとなりました。伝統ある角膜カンファランスを開催させていただくにあたり、日本角膜学会ならびに日本角膜移植学会の会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

角膜カンファランスは毎年、基礎・臨床ともに数多くの演題が登録され、活発な討論が繰り広げられてきました。これまでに角膜カンファランスで発表されて、その後に世界標準となったコンセプト、診断や治療法も少なくありません。その一方で格式ばらずに、自由な雰囲気や若い先生方が参加してきたという特徴があります。今年も角膜カンファランスの伝統である「活発に議論し、交流する」ことを大切に、ベテランも若手もともに学び、角膜分野の今後の発展に寄与できる学会を目指したいと思います。

今回、National Taiwan Universityの Fung-Rong Hu教授に招待講演をお願いしました。感染性角膜炎について、幅広い視点からご講演いただく予定です。またシンポジウム「皮膚粘膜症候群 up to date」では、視力予後が極めて不良かつ難治な Stevens-Johnson症候

群、眼類天疱瘡、GVHDを取り上げる予定です。もう一つのシンポジウムは「翼状片手術のこだわり」と題して、手術のエキスパートがこだわるポイントとその理由を解説していただきます。そして、学会の主軸は一般演題です。活発な討論を通して新たな知見も得られます。学会に積極的に参加し、多くの情報を得て、今後の診療や研究に役立てていただくことを期待しております。

京都での開催は 1995年以来、24年ぶりとなります。桜満開の春、紅葉の秋も素晴らしいですが、静かな冬もまた京都ならではの味わいがあります。学会後の連休、時間が許せば冬の京都を是非お楽しみください。



京都府立医科大学
外園 千恵



角膜カンファランス過去開催一覧表

回数	日時	場所		世話係	演題数
1	1977年2月26日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	16
2	1978年2月25日	関電ビル 2F 関電会館	大阪	眞鍋禮三	10
3	1979年2月17日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	15
4	1980年2月24日	大阪中之島センタービルロイヤル NCB 会館 3F 会議室 3号	大阪	眞鍋禮三	21
5	1981年3月1日	霞ヶ関ビル33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	28
6	1982年5月20日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
7	1983年5月19日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
8	1984年2月26日	イカリビル 2F 大ホール	大阪	眞鍋禮三	40
9	1985年2月16日、17日	日光金谷ホテル	栃木	大原國俊	56
10	1986年2月28日、3月1日	八幡平リゾートホテル	岩手	田澤 豊	57
11	1987年2月13日、14日	大磯プリンスホテルプリンスホール	神奈川	金井 淳	55
12	1988年2月19日、20日	宝塚ホテル	兵庫	眞鍋禮三	78
13	1989年2月24日、25日	北海道大学学術交流会館	札幌	松田英彦	84
14	1990年2月1日、2日	東京ベイヒルトンインターナショナルホテル	東京 千葉	北野周作 崎元卓	109
15	1991年2月8日、9日	筑波大学学生会館	茨城	本村幸子	114
16	1992年1月31日、2月1日、2日	パシフィコ横浜	神奈川	増田寛次郎	139
17	1993年1月2日、23日、24日	白浜・ホテルシーモア	和歌山	大鳥利文	157
18	1994年2月18日、19日、20日	すみだリバーサイドホテル浅草ビューホテル	東京	宮永嘉隆	188
19	1995年2月9日、10日、11日	日都ホテル	京都	木下茂	180
20	1996年2月16日、17日、18日	日恵比寿ガーデンプレイス内ザガーデンホール	東京	小口芳久	187
21	1997年2月7日、8日、9日	愛媛県民文化会館	愛媛	大橋裕一	183
22	1998年2月13日、14日、15日	賢島 宝生苑	三重	杉田潤太郎	204
23	1999年2月11日、12日、13日	宇部全日空ホテル	山口	西田輝夫	175
24	2000年2月17日、18日、19日	東京ベイホテル東急	千葉	坪田一男	184
25	2001年2月8日、9日、10日	りんくう国際会議場全日空ゲートタワーホテル大阪	大阪	下村嘉一	202
26	2002年2月21日、22日、23日	パシフィコ横浜	神奈川	澤 充	208
27	2003年2月20日、21日、22日	軽井沢プリンスホテル西館	長野	村松隆次	200
28	2004年2月19日、20日、21日	米子コンベンションセンター(ビッグシップ)	鳥取	井上幸次	237
29	2005年2月17日、18日、19日	徳島プリンスホテル	徳島	塩田 洋	201
30	2006年2月9日、10日、11日	東京ビッグサイト TFT ホール	東京	大鹿哲郎	200
31	2007年2月9日、10日、11日	ワールドコンベンションセンター	宮崎	宮田和典	220
32	2008年2月28日、29日、3月1日	東京ベイホテル東急	東京	天野史郎	221
33	2009年2月19日、20日、21日	ザ・リッツ・カールトン大阪	大阪	前田直之	216

回数	日時	場所	世話係	演題数	
34	2010年2月11日、12日、13日	仙台国際センター	仙台	西田幸二	198
35	2011年2月17日、18日、19日	品川プリンスホテル	東京	高橋 浩	200
36	2012年2月23日、24日、25日	ホテルニューオータニ	東京	山口達夫	214
37	2013年2月14日、15日、16日	和歌山県立町立総合体育館・白浜健康館	和歌山	雑賀司珠也	229
38	2014年1月30日、31日、2月1日	沖縄コンベンションセンター	沖縄	島崎 潤	264
39	2015年2月11日、12日、13日	高知市文化プラザかるぽーと	高知	福島敦樹	227
40	2016年2月18日、19日、20日	軽井沢プリンスホテルウエスト	長野	清水公也	232
41	2017年2月16日、17日、18日	アクロス福岡	福岡	内尾英一	225
42	2018年2月15日、16日、17日	グランドプリンスホテル広島	広島	近間泰一郎	231

学術奨励賞受賞者一覧表

年度	回数	受賞者	所属
2003年	第1回	榛村重人	東京歯科大
		中村隆宏	京都府立医大
2004年	第2回	堀 純子	日本医大
		川崎 諭	京都府立医大
2005年	第3回	加治優一	筑波大臨床医学系
		小泉範子	京都府立医大
2006年	第4回	川北哲也	東京歯科大市川総合病院
		福田 憲	山口大
2007年	第5回	山田潤	明治鍼灸大
		小林 顕	金沢大
2008年	第6回	臼井智彦	東京大
		平岡孝浩	筑波大臨床医学系
		堀 裕一	大阪大
2009年	第7回	有田玲子	東京大、伊藤医院
		井上智之	大阪大
2010年	第8回	川島素子	慶應大
		森重直行	山口大
2011年	第9回	奥村直毅	京都府医大
		柳井亮二	山口大
2012年	第10回	羽藤 晋	慶應大
		中司美奈	京都府医大
2013年	第11回	崎元 暢	日本大
		鈴木 崇	愛媛大
2014年	第12回	高 静花	大阪大
		平山雅敏	慶應大
2015年	第13回	大家義則	大阪大
		山口剛史	東京歯科大
2016年	第14回	北澤耕司	京都府医大
		林 竜平	大阪大
2017年	第15回	猪俣武範	順天大
		内野裕一	慶應大

猪俣 武範 (順天堂大学)

制御性T細胞を用いた角膜移植における新規免疫抑制療法のための研究



この度は名誉ある第15回日本角膜学会学術奨励賞を賜りまして、誠にありがとうございます。平素より惜しみないご指導をいただいております順天堂大学眼科学教室の村上晶教授、大学院において指導をしてくださった海老原伸行教授、順天堂大学眼科医局員の先生方、大学院生のチームの皆様深く御礼を申し上げます。また、ボストン留学時には多大な指導をいただきましたHarvard Medical School, Massachusetts Eye & Ear Infirmary, Schepens Eye Research Institute のReza Dana教授ならびに国際色あふれる研究室の仲間にも感謝を申し上げます。

私は2012年より角膜移植ならびにドライアイにおける免疫に関する研究に従事させていただいております。とくに、T細胞のサブセットである制御性T細胞(Regulatory T cell, Treg)の免疫抑制能に着目した研究を行っています。

角膜移植は本邦で約2,000件、世界で

60,000件以上行われる最も多い臓器移植です。ステロイドやタクロリムスなどの免疫抑制剤の登場により、角膜移植後の急性拒絶反応が減少傾向にありますが、いまだに感染症、自己免疫疾患の合併、再移植症例など血管新生や炎症が惹起されたハイリスク症例では、その40~90%に強い拒絶反応を伴うことが問題となっています。

角膜移植における拒絶反応は、角膜移植によって新生した血管由来のレシピエントの免疫系細胞が、移植したドナー角膜を異物として認識し、エフェクターT細胞は標的である角膜移植片を破壊します。そこで、TregはエフェクターT細胞に対して抗原特異的に働き、副作用なく角膜移植片に免疫寛容を成立させることができると期待されています。そして、Tregを用いた新規免疫抑制療法の臨床応用にはTregを安定的に誘導する免疫抑制経路を解明し、移植臓器に効率的に誘導する方法を開発することが重要です。私たちは、炎症や

血管新生を誘導したハイリスク角膜移植モデルにおいて、Tregと細胞障害性Tリンパ球抗原4(CTLA-4)を介した経路が拒絶反応の抑制に重要な働きをしていることを明らかにしました(Inomata T et al, Sci Rep. 2016)。また、ハイリスク角膜移植ではIL-10やTGF-βなどの抑制性サイトカインの減少が明らかになったことで、これらの抑制性分子(CTLA-4)やサイトカイン(IL-10、TGF-β)を効率的に増幅することで、Tregの誘導の安定化を図れる可能性を明らかにしました(Tahvildari M, Omoto M, Chen Y, Emami-Naeini P, Inomata T et al, Transplantation. 2016)。

現在は、順天堂大学大学院医学研究科アトピー疾患研究センターの奥村康研究室の研究協力のもと、Tregの有効な対増幅方法の開発に取り組んでいます。今後はTregを用いた新規免疫抑制療法の臨床応用を目指して研究を継続してまいります。



村上 晶教授と順天堂大学眼科学教室の先生方



ボストン留学先のDana Lab.の国際色あふれる仲間たち

内野 裕一 (慶應大学)

ドライアイにおける眼表面 グライコカリックスバリアの変化



この度は名誉ある第15回日本角膜学会学術奨励賞をいただきました大変嬉しく思います。

本稿ではわたくし自身が角膜という分野でどれだけ多くの人たちに育てていただいたか、感謝を込めて振り返りたく思います。

自分が角膜に興味をもちましたのは、眼科医2年目に出張病院で外来を担当するようになり、先輩の先生方にご指導いただきながら角膜感染症の患者さんを診察したときです。小さな角膜上皮欠損から常在菌感染を起こした比較的若い患者さんで、ご本人は痛さ見えにくさからとても不安そうでしたが、抗生物質点眼が奏効して所見も視力も劇的に回復すると、患者さんも(同じく不安だった自分も...)とても安心し喜んでくれました。角膜に病変があると著しく視機能が落ちること、角膜の美しい透明性と滑らかな曲面の重要性を目の当たりにし、角膜混濁を劇的に治療できる角膜移植という手術に惹かれて、帰室してすぐに東京歯科大学市川総合病院の島崎潤教授に教えを請うことにしました。そこは学閥を排して様々な大学出身の角膜フェローが集い、多くの難症例を一丸になって治療する、まさに梁山泊のような所でした。当時は多忙を極めていたはずが、みんな笑顔で仕事をしていたのが懐かしいです。臨床に勤しむ傍ら、榛村重人先生は歯科大学でも慶應大学へ移られた後も基

礎実験のおもしろさを教えて下さいました。実験知識が皆無でも手術なら楽しめるだろうとお気遣いいただき、宮下・比嘉両研究員と人工角膜実質をウサギに埋め込む手術を通して研究論文を報告することができました。この体験こそが基礎研究に興味をもつ大事な起点となりました。その後、後藤英樹先生、ムラトドール先生から臨床論文作成のご指導をいただき、Clinical Scientistとして患者さんに向き合う大切さを学びました。慶應大学に帰室後は坪田教授の多くの患者さんと向き合う教授フェローの機会をいただき、松本幸裕先生の助けを借りて何とか乗り切りました。いよいよ自分で研究テーマを模索しはじめた眼科医十年目の頃に、ムチンをターゲットにした点眼薬が2種類も日本から発売されました。ドライアイなどの眼表面疾患に対してエビデンスに基づいた治療をするために、眼表面ムチンをしっかり勉強できる留学先を探し始めました。当時から眼表面ムチン

研究でご高名だった堀裕一東邦大学教授より、Ilene Gipson教授の一番弟子であるPablo Argüeso博士をご紹介いただきました。ラボ見学にボストンのスケペンス眼研究所にうかがうと、Pablo先生は親切丁寧に自身の研究を解説してくれ、またラボメンバーも本当にいい人ばかりで、留学するならここしかないという即決しました。見学から帰国後にトライできる留学奨学金へ片端から応募し、グラントを得て幸運にも4年間にわたりPabloラボで楽しく研究させていただきました。その後は眼表面ムチンによるグライコカリックスバリア機能維持と疾患によるその破綻メカニズムに焦点をあてて研究しております。未熟者ですので、今まで同様に多くの人たちに支えていただきながら、これからももしっかり前に進めるように頑張りたいと思います。これからも皆様からのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



2015年に引退したIlene Gipson教授(ソファに座わる右から2番目の女性)をお迎えし、我が家で記念のホームパーティを主催した際の写真
手前でメガネを掛けているのが自分のボスであるPablo Argeüso博士。Ileneの引退式典出席のため、多くの日本人フェローの先生方がボストンに集まりました。



内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞

1994～2018年度受賞者一覧表

★1994年(第18回角膜カンファランス・第10回日本角膜移植学会)

内田賞	西川都子(近畿大)	インターロイキンによる実験的角膜炎	
北野賞	細見雅美(神戸海星病院)	角膜潰瘍に対するヒアルロン酸点眼薬の効果	
眞鍋賞	木佐貫操(神戸大)	Werner症候群の角膜における細胞増殖能についての組織学的検討	

★1995年(第19回角膜カンファランス・第11回日本角膜移植学会)

内田賞	近藤順子(眼科杉田病院)	強角膜片保存中の内皮細胞検査(アイバンク用スペキュラーマイクロスコープ)	角膜学会誌第1巻184頁
北野賞	吉田裕司(東京工芸大)	生体眼での複屈折効果(その1)-角膜形状応用力状態の計測-	角膜学会誌第1巻187頁
眞鍋賞	長田さやか(金沢大)	アトピー性皮膚炎患者の角膜形状の検討	角膜学会誌第1巻189頁

★1996年(第20回角膜カンファランス・第12回日本角膜移植学会)

内田賞	吉野真未(慶應大)	骨髄移植に伴うドライアイ	眼紀第48巻453-455頁、 角膜学会誌第2巻158頁
北野賞	渡辺牧夫(高知医大)	約2年間のソフトコンタクト連続装用による細菌性角膜潰瘍の一例	眼紀47巻1054-1058頁、 角膜学会誌第2巻75頁
眞鍋賞	新妻卓也(女子医大第二)	PRK後の不可逆性上皮下混濁の組織変化	眼紀第47巻1464-1467頁、 角膜学会誌第2巻56頁

★1997年(第21回角膜カンファランス・第13回日本角膜移植学会)

内田賞	光本拓也(佐賀医大)	角膜細胞の新しい単離培養法(短冊法)の試み	角膜学会誌第3巻137頁
北野賞	木村内子(東芝病院)	幼児角膜を用いた全層角膜移植の長期予後ラット全層角膜移植モデルにおけるドナー	角膜学会誌第3巻139頁
眞鍋賞	皆本敦(広島大)	角膜に対する紫外線照射の効果	角膜学会誌第3巻146頁

★1998年(第22回角膜カンファランス・第14回日本角膜移植学会)

内田賞	内田幸男選考委員ご逝去につき今回は北野賞・眞鍋賞のみとし、各2名ずつ選ぶことになった。		
北野賞	①渡辺仁(大阪大)	ケラトエピテリン関連角膜変性症の遺伝子異常の違いによる臨床所見の相違	Ophthalmology, 角膜学会誌第4巻113頁
	②光本拓也(佐賀医大)	角膜内皮の修復:細胞外基質と成長因子を関連させた内皮修復の解析法	角膜学会誌第4巻115頁
眞鍋賞	①足立和加子(京都府医大)	ヒト角膜上皮に特異的な新規カテプシンのクローニング	角膜学会誌第4巻113頁
	②佐藤敦子(日本大)	自動角膜厚測定装置(SP-2000P)の臨床的評価	眼紀第50巻18-21頁

★1999年(第23回角膜カンファランス・第15回日本角膜移植学会)

内田賞	新田卓也(北海道大)	細菌アレルギーの関与する慢性角結膜炎に対するテトラサイクリン内服療法	角膜学会誌第5巻105頁
北野賞	川崎諭(京都府医大)	眼表面疾患慢性期における結膜浸潤細胞	角膜学会誌第5巻102頁
眞鍋賞	平野耕治(名古屋大)	光学的干渉断層計(OCT)の角膜疾患診断への応用について	角膜学会誌第5巻111頁

★2000年(第24回角膜カンファランス・第16回日本角膜移植学会)

内田賞	村戸ドール(神戸海星病院)	エキシマレーザー治療の角膜切除術後の眼表面所見の原疾患別検討	角膜学会誌第6巻98頁
北野賞	弓狩純子(女子医大)	アトピー性角膜炎の角膜上皮障害における好酸球とエオキタシンの関与	角膜学会誌第6巻80頁
眞鍋賞	八木明美(静岡県アイバンク)	静岡県アイバンクの幹旋に関する統計調査(1982-1999)	角膜学会誌第5巻111頁

★2001年(第25回角膜カンファランス・第17回日本角膜移植学会)

内田賞	Zheng Xiaodong(愛媛大)	アカントアメーバはヒト角膜上皮細胞アポトーシスを誘導する	角膜学会誌第7巻123頁
北野賞	月山純子(近畿大)	角膜上皮創傷治癒におけるプロスタグランジンの作用機序について	角膜学会誌第7巻123頁
眞鍋賞	加賀谷文絵(東京大)	ヒト羊膜上皮培養上清は角膜移植後の血管新生を抑制する	角膜学会誌第7巻128頁

★2002年(第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会)

内田賞	中川裕子(徳島診療所)	眼圧上昇を伴う重篤な角膜ブドウ膜炎を呈したムンプス	角膜炎の1例角膜学会誌 第8巻35頁
北野賞	尾藤洋子(京都府医大)	結膜弛緩症の多数例に対する涙液メニスカス再建術の検討	角膜学会誌第8巻80頁
眞鍋賞	藤田聡(東京医大)	レシピエント角膜上皮を温存した角膜移植術	角膜学会誌第8巻87頁

★2003年(第27回角膜カンファランス・第19回日本角膜移植学会)

内田賞	大宮勝美(羽曳野病院)	両眼性・多発性の角膜上皮嚢胞を示した1症例	角膜学会誌第9巻87頁
北野賞	大野健治(国立東京医療センター)	病状説明でのフルオレセイン・ブルーフリーシステムの有用性	角膜学会誌第9巻71頁
眞鍋賞	遠藤健一(京都府医大)	羊膜上皮基底膜におけるIV型コラーゲン $\alpha 5$ 鎖の発現・角膜上皮基底膜との類似性-	角膜学会誌第9巻90頁

★2004年(第28回角膜カンファランス・第20回日本角膜移植学会)

内田賞	茂田今日子(銚子市立総合病院)	角結膜疾患患者における涙液中ケモカインの検討	角膜学会誌第10巻158頁
北野賞	酒井理恵子(自治医大)	ヒト角膜内皮細胞に高発現するCESP-1の特異抗体作製と細胞内局在	角膜学会誌第10巻152頁
眞鍋賞	前田政徳(近畿大)	結膜弁被覆を併用した人工角膜手術	角膜学会誌第10巻170頁

★2005年(第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会)

内田賞	鴨居瑞加(立川共済病院)	涙液分泌低下型ドライアイにおける涙液蒸発率と涙液油層状態	角膜学会誌第11巻78頁
北野賞	板橋幹城(近畿大)	WGCV, GVACVのヘルペス性角膜上皮炎への効果	角膜学会誌第11巻87頁
眞鍋賞	渡邊和誉(兵庫アイバンク)	献眼情報より臓器および組織提供に結びついた1例	

★2006年(第30回角膜カンファレンス・第22回日本角膜移植学会)

内田賞	張巍(愛媛大)	Frameshift Mutationによるアシクロビル耐性角膜ヘルペスの1例	角膜学会誌第12巻109頁
北野賞	寺井典子(京都府医大)	マウス角膜の分化・成熟におけるケラチン12の発現	角膜学会誌第12巻97頁
眞鍋賞	諸星計(鳥取大)	CCR5・CXCR3欠損マウスにおける角膜移植後拒絶反応の検討	角膜学会誌第12巻104頁

★2007年(第31回角膜カンファレンス・第23回日本角膜移植学会)

内田賞	林竜平(東北大)	角膜輪部上皮におけるN-cadherin発現細胞の解析	
北野賞	林孝彦(横浜市大)	マウス水疱性角膜症眼に対するアロ角膜内皮細胞移植とアロ全層角膜移植の免疫反応	
眞鍋賞	石丸慎平(獨協医大)	深部表層角膜移植【DLKP】術にて摘出された角膜の組織学的検討	

★2008年(第32回角膜カンファレンス・第24回日本角膜移植学会)

内田賞	佐藤エンリケ アダン(慶應大)	レーザー生体共焦点顕微鏡によるシェーグレン症候群 症例の涙腺炎症状態の観察	
北野賞	子島良平(宮田眼科病院)	アカントアメーバに対する薬剤感受性試験の検討	
眞鍋賞	入江真理(富山県アイバンク)	富山県アイバンクの15年の活動報告	

★2009年(第33回角膜カンファレンス・第25回日本角膜移植学会)

内田賞	三村達哉(東京大)	角膜血管新生におけるin vitroでのMT1-MMPのDecorin分解	
北野賞	長谷川美恵子(大手前病院)	フルオロキノロン耐性を示した感染性角膜潰瘍の3例	
眞鍋賞	横川英明(金沢大)	Busin グライド使用に伴う内皮障害評価-新鮮ヒト角膜を用いた実験-	

★2010年(第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会)

内田賞	山田直之(山口大)	フィブロネクチン由来ペプチド PHSRN 点眼が著効した神経麻痺性角膜症の1例	
北野賞	竹田一徳(京都府医大)	急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績	
眞鍋賞	田中寛(京都府医大)	眼表面疾患患者のMRSA 保菌に関する検討	

★2011年角膜カンファレンス(第35回日本角膜学会・第27回日本角膜移植学会)

内田賞	吉田悟(慶應大)	角膜実質の再生医療に向けた神経幹細胞のiPS細胞からの誘導	
北野賞	松永透(順天大)	リン酸基含有ハイドロゲルをデバイスとした前眼部へのTACSTD2 遺伝子導入	
眞鍋賞	中村孝夫(大手前病院)	無水晶体眼水疱性角膜症に対する角膜内皮移植	

★2012年角膜カンファレンス(第36回日本角膜学会・第28回日本角膜移植学会)

内田賞	水戸毅(愛媛大)	アカントアメーバへのphotodynamic therapy (PDT):抗アメーバ薬との併用効果の検討	
北野賞	小林剛(愛媛大)	マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞の免疫組織学的検討	
眞鍋賞	中川紘子(京都府医大)	同一ドナーから提供をうけた2眼を使用した角膜内皮移植での角膜内皮細胞密度の経過	

★2013年角膜カンファレンス(第37回日本角膜学会・第29回日本角膜移植学会)

内田賞	伊藤吉将(近畿大・薬)	薬物ナノ粒子分散液の調製と点眼製剤としての応用性:ナノ粒子分散液の角膜傷害性評価	
北野賞	松永透(順天大)	膠様滴状角膜ジストロフィ角膜上皮細胞へのTACSTD2遺伝子導入・機能発現	
眞鍋賞	稲垣絵海(慶應大)	マウス角膜実質幹細胞の細胞移植	

★2014年角膜カンファレンス(第38回日本角膜学会・第30回日本角膜移植学会)

内田賞	近間泰一郎(広島大)	非接触高倍対物レンズを用いたレーザー生体共焦点顕微鏡による病原微生物の観察	
北野賞	森重直行(山口大)	角膜実質コラーゲン線維束構造の解剖学的特徴	
眞鍋賞	島伸行(東京大)	角膜の曲率適合型培養ヒト角膜内皮細胞シートの有効性・安全性の評価	

★2015年角膜カンファレンス(第39回日本角膜学会・第31回日本角膜移植学会)

内田賞	高橋広樹(東京医科大学)	角膜内ランゲルハンス細胞の動態	
北野賞	北澤耕司(京都府立医科大学/ 京都大学iPS細胞研究所)	CRISPR/Cas9を用いてPAX6をノックアウトしたヒト角膜上皮細胞の検討	
眞鍋賞	稲富 勉(京都府立医科大学)	Descemet membrane endothelial keratoplastyにおける角膜厚と視力推移の検討	

★2016年角膜カンファレンス(第40回日本角膜学会・第32回日本角膜移植学会)

内田賞	田島一樹(慶應大外科・東京医大)	病原遺伝子の網羅的検索による多剤耐性緑膿菌角膜炎の病原性解析	
北野賞	稲垣絵海(慶應大)	ヒト皮膚幹細胞由来の誘導角膜内皮細胞におけるポンプ機能解析	
眞鍋賞	石居信人(旭川医大)	角膜内皮移植の予後に関連する因子	

★2017年角膜カンファレンス(第41回日本角膜学会・第33回日本角膜移植学会)

内田賞	石川 幸(大阪大)	ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養	
北野賞	北本昂大(東京大)	顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集	
眞鍋賞	柿栖康二(東京歯大)	海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響	

★2018年角膜カンファレンス(第42回日本角膜学会・第34回日本角膜移植学会)

内田賞	成松明知(東京医大)	角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討	
北野賞	難波広幸(山形大)	乱視ベクトル解析と10年間の経時変化:山形県コホート研究(舟形町研究)	
眞鍋賞	福井佑弥(同志社大)	ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討	

成松 明知 (東京医科大学)

2018年度 内田賞を受賞して



この度、角膜カンファランス2018にて内田賞という大変名誉ある賞を受賞させていただき、審査員の先生方、学会長の近間泰一郎先生、並びに東京医科大学の後藤浩主任教授をはじめとした医局員の先生方に厚く御礼を申し上げます。今回、私は「角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討」という内容で研究発表させていただきました。

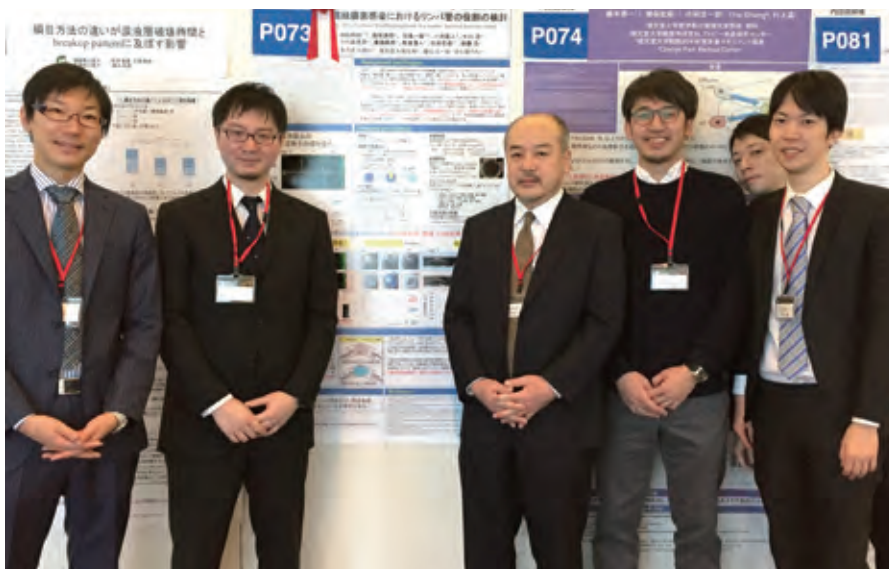
細菌性角膜炎、とくに緑膿菌に代表されるグラム陰性菌による角膜炎は、ときに重症化し、感染が消退した際にも角膜混濁を来し、重篤な視力障害を来すことがあります。本研究で私たちは角膜のリンパ管新生に注目し、細菌

性角膜炎においては、リンパ管新生により細菌性角膜炎後の角膜混濁を抑制する可能性があることを明らかにしました。

本研究は、私が大学院に入学してから初めて手がけた研究のため、思い入れも深く、このような賞をいただき、大変光栄に感じております。研究を始めた当初は、右も左もわからない状況で、先輩の大学院生である田島一樹、高橋広樹両先生の指導を受けながら、マウスの角膜をズタズタにしながら何とか免疫染色を行っていたのを思い出します。その後、微生物学教室に出向させていただき、西新宿と新宿御苑前の二つのキャンパスを往復しながら沢山の

ことを学ばせていただきました。快く受け入れてくださった当時の微生物学分野、現在は国際医療福祉大学感染症学講座の主任教授である松本哲也教授、菌の調整方法などを基本から丁寧に教えてくださった小池直人先生に厚く御礼申し上げます。また、服部貴明先生には、角膜免疫分野の豊富な経験と知識で研究を指導していただきました。至らない部分も多々あったと思うのですが、常に自分に寄り添って研究のディスカッションに付き合ってください、大変感謝しています。先生に指導していただけて、本当に幸運でした。更に、熊倉重人先生、同期の片平晴己先生、嶺崎輝海先生をはじめとした東京医大角膜班の皆さんには、私が研究に従事している間、臨床の面を支えていただきました。本当にありがとうございました。

こうして思い返すと、皆さんへの感謝ばかりになってしまいますが、やはり研究とは一人の力ではできないものと強く感じております。今回の受賞も周りの方々に支えられていただいたものと思っておりますので、今後も研究を続けて、良い成果を出していけるように精進する次第です。まだまだ未熟者ですので、引き続きご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



東京医科大学角膜班の先生方と

難波 広幸 (山形大学)

2018年度 北野賞を受賞して



この度、広島で行われました角膜カンファランス2018におきまして、名誉ある北野賞を賜りましたこと、審査員の先生方と学会長の近間泰一郎先生に厚く御礼を申し上げます。

「乱視ベクトル解析と10年間の経時変化：山形県コホート研究(舟形町研究)」という研究課題について発表させていただきました。乱視を評価するに際して、円柱度数と乱視軸を別々に扱っては、とくにその動的变化を検討するためには不十分です。私たちはこれらを一括して評価するために、Thibosらが提唱したPower Vector Analysisを用いて、同一個人の10年間の乱視変化を検討しています。加齢による角膜の倒乱視化は30歳代では有意には進行せず、40歳代以降に年代の差はなく進行することが示されました。

山形大学医学部では、全県を対象に遺伝子を含めたコホート研究(山形県コホート研究)を行っています。眼科もその一部に位置づけられる舟形町研究に2000年から参加し、当初は眼底写真から糖尿病網膜症をはじめとした網膜疾患の有病率と、それに関連する因子について検討してきました。これは現在大阪大学にいらっしゃる川崎良先生が立ち上げ、先輩方が引き継いできた成果です。2012年に私がかかわるようになってからは波面センサーや前眼部OCTなどの検査を追加し、前眼部、光学的分野の検討も追加しています。住民検診で対象を5年ごとにfollow upする形式となっているため、縦断的な検討が可能であり、今回の研究課題もそのなかから出てきた検討です。今回の受賞も諸先輩方、また協力してくだ

さっている開業医の先生方の築きあげたプラットフォームがあったからこそと考えております。この場をお借りして感謝申し上げます。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私は山形大学で角膜分野をほぼ1人で担当しています(数年前には後輩が1人いましたし、今も別の後輩が週1回は外来に来ているのですが)。そのなかでこのような賞をいただけたというのは、当教室の山下英俊教授、そしてこの角膜学会の諸先輩方に、色々な面でご指導いただいたことが大きいと感じています。他大学の人間にも分け隔てなく接して下さる、角膜学会の先生方に深く感謝申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



後輩たちとともに



舟形町眼科検診の風景

福井 佑弥 (同志社大学大学院生命医科学研究科)

2018年度 眞鍋賞を受賞して



この度は、名誉ある眞鍋賞を受賞させて頂き、誠にありがとうございました。ご支持下さいました選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

私は同志社大学大学院・生命医科学研究科ティッシュエンジニアリング研究室の大学院生です。私たちの研究室では、眼科医である小泉範子教授、奥村直毅准教授の指導のもと、32名の学部生、大学院生が新しい角膜疾患治療の開発を目指した研究を行っています。

今回私は、「ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討」というテーマで、超臨界二酸化炭素処理による脱細胞化技術を用いて作成したSPFブタ由来角膜シートの角膜疾患治療への有用性を報告しました。今回の発表には、角膜シートの強度や厚さといった材料工学の知識を用いた実験と、動物を用いた角膜移植実験を行いました。医学、工学、理学等の異なる専門性をもつメンバーが在籍する研究室の強みが発揮できたと思います。また本テーマはACRO Biomedical社という台湾の企業と共同して研究を進めました。大学院生という身でありながら産学連携の国際的共同研究を行うチャンスをいただけたことで、大きな責任感を持ち、「臨

床現場に還元するような成果を得たい」と高いモチベーションで研究に取り組むことができました。研究で挫折しそうなときも気軽に相談できる風通しの良い研究室であったのも非常に運がよかったと思っています。本シートを用いたサンドイッチ移植は、円錐角膜や屈折矯正手術後の角膜拡張症の治療への臨床応用が期待されており、今後は安全性、有効性の検討を重ね、臨床応用を目指していきます。

この度、眞鍋賞を受賞できたのは、日頃から熱心なご指導を頂いている小泉範子教授、奥村直毅准教授、日々

切磋琢磨している研究室のメンバー、両親などのサポートのおかげです。かわっていただいた皆様に心から感謝申し上げます。私は化学技術を用いて医療機器や医薬品を開発する仕事に携わりたいと思い、卒業後は化学メーカーへの就職を決めました。角膜治療の研究を通じて学んだことを生かし、自分の信念をもって人々に貢献することが、お世話になった皆様への恩返しであると考えております。私自身、眞鍋賞に恥じないような活躍ができますよう日々精進して参ります。



角膜カンファレンス2018にて 研究室の仲間たちと

日本角膜学会 会則

第1章 名称・事務局

- 第1条 本会は日本角膜学会(Japan Cornea Society)と称する。
第2条 本会の事務局は、〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3-6 山本ビル302号室日本眼科紀要会内に置く。

第2章 目的および事業

- 第3条 本会は角膜・眼表面に関する基礎的、臨床的研究を通して、これに関わる疾患の診断と治療の発展に資することを目的とする。
第4条 本会は第3条の目的を遂行するために次の事業を行う。
1) 学術集会の開催
評議員会で会長を指名し、その会長が年1回の学術集会(日本角膜学会総会)を日本角膜移植学会と併催する。
2) 学会誌の発行
年1回発行する。
3) 日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの関係諸団体と協力し、活動に関係した講習会、研究、社会貢献(市民公開講座)を開催する。
4) その他、本会の目的に沿った事業を行う。
5) 倫理規定と利益相反(COI)を決める。

第3章 会員

- 第5条 会員は角膜・眼表面の研究に従事する者およびこれに準ずる者で、第6条の所定の手続きを完了したものとす。
第6条 本会に入会を希望する者は規定の申込用紙に必要事項を記入し、会費をそえて事務局に申込み、理事会の承認を受けることとする。
第7条 退会を希望する者は退会届けを事務局に提出しなければならない。ただし、3年以上会費払い込みのない者は自動退会とする。また、本会の名誉を著しく傷つける行為のあった者は理事会の議決を経て除名することができる。
第8条 休会を希望する者は休会届けを事務局に提出しなければならない。
第9条 会員は学術集会に参加し研究発表を行うことができる(筆頭発表者は会員に限る)。
第10条 本会に法人会員を置くことができる。法人会員は理事の推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。
第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は65歳以上の会員で、理事長経験あるいは10年以上の理事歴を有し、本人が承諾した者。名誉会員は評議員会に参加して意見を述べるができるが、議決には関与できない。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

第4章 評議員

- 第12条 本会に30名の評議員を置く。
第13条 評議員は有権者の投票にて立候補者から30名選出される(選挙は2年に1回、無記名、10名~20名連記で行う)。評議員の選挙は評議員会で選出された4名の選挙管理委員によって施行される。評議員の任期は1月1日から翌年の12月31日とする。なお、有権者とは、会員のうち選挙施行年度の会費の支払いが指定された期日までに終了している者とする。

第5章 役員(理事および監事)

- 第14条 理事は選任年の1月1日に65歳未満である者で、評議員の

中から投票によって8名選出される。理事長は理事の投票によって選出される。理事長は理事以外の評議員の中から監事2名を指名する。

- 第15条 理事長は本会の会務を総括する。理事長の任期は1期2年とし、再任は永久に妨げる。また、理事長が任期中、何らかの事故に遭遇し、その職務を遂行できなくなった場合、理事会がその職務を代行する。理事長ならびに役員は次の理事長ならびに役員が決定するまでその職務を代行する。
第16条 理事の職務は、会計、学術、編集、渉外・社会保険、総務、研究、記録の7分野で、各理事が各々の分野の責任者となり、理事長が総括する。
第17条 役員の任期は、3月1日から翌々年の2月末日までの2年とし再任を妨げないが、連続2期を超えて重任することはできない。
第18条 役員に欠員が生じた場合は、投票結果の次点者を充てる(任期は前任者の任期の残りを充てる)。
第19条 役員、評議員は無給とする。

第6章 会議

- 第20条 会議は総会、評議員会、理事会とし、理事長がこれらを招集し、その議長を務める。また、理事会には、役員その他、当年度および次年度の会長が出席する。
第21条 総会、評議員会、理事会は年1回開催されるが、理事長は必要に応じて臨時に総会、評議員会、理事会を招集することができる。
第22条 理事会は本会の運営方針に関する重要事項について立案し、評議員会に提案するとともに、評議員会での決定事項を実行する。
第23条 評議員会は理事会での提案事項を協議し、決定する。
第24条 総会では、理事長が理事会および評議員会での決定事項を報告する。
第25条 評議員会は構成員数の2/3の出席をもって成立する(委任状を認める)。
第26条 評議員会の議事は実出席者の過半数をもって可決される。
第27条 監事は年1回、会計監査を行い、評議員会にて報告する。

第7章 会費

- 第28条 本会の運営経費は会員の会費、法人会員の会費その他をもって行う。但し非営利的に運営されねばならない。
第29条 本会の会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

付 則

- 第1条 本会則は1995年1月1日より発効実施される。
第2条 本会則は評議員会実出席者の2/3以上の同意により変更できる。
第3条 本会の会員の年会費は年額5,000円とする。法人会員の年会費は年額50,000円とする。
第4条 学術集会の会費は当該会長によって決定される。
第5条 本会の会員の年会費を年額10,000円に変更する。
(1996年2月16日改訂)
(1999年2月12日改訂)
(2010年2月11日改訂)
(2012年2月23日改訂)
(2015年4月9日改訂)
(2016年2月18日改訂)
(2018年2月15日改訂)

2018年日本角膜学会理事会議事録

開催日時：2018年2月14日(水)18:00～19:30

場 所：日本料理「三嶋」

出席者：井上幸次、大鹿哲郎、大橋裕一、外園千恵、

前田直之、堀 裕一 各理事

宮田和典、横井則彦両監事

欠 席 者：下村嘉一、坪田一男

オブザーバー：近間泰一郎 事務局 三宅啓子 計10名

議 長：大鹿哲郎理事長

議 題：

1. 報告事項

1. 会員の動静 大鹿理事長
1,228名(2018年1月31日現在)、休会者1名、留学4名
本会員 1,228名(2017年1月1,210名 18名増)
(医師 1,137名 医師以外 91名)
法人会員 21社(2017年1月 21社 増減なし)
2. 2017年度会計報告 大橋理事
歳入：会費未納者が50名弱いる。ホームページの広告が1社増えた。
歳出：調査研究費はTS-1のみであった。印刷費は年次報告書の頁数が減ったため減額。旅費はあまり出費がなかった。合計で890万円くらいである。
次年度繰越金が1200万円くらいあるので、予算をあとで審議したい。
横井監事より帳簿の記載、証拠書類の保存、管理は適切である、との報告があった。
3. 第15回学術奨励賞について 大鹿理事長(下村理事)
2017年12月10日(日) ザ・リッツカールトン大阪にて選考委員会開催
(下村嘉一委員長、秦野 寛、林皓三郎、2委員 事務局三宅啓子、崎元 卓、田川義継、西田輝夫、山口達夫欠席)を開催した。
応募者5名を慎重に選考し、下記の2名に決定した。
受賞者
・猪俣武範(順天堂大学)
「制御性T細胞を用いた角膜移植における新規免疫抑制療法開発のための研究」
・内野裕一(慶應義塾大学)
「ドライアイにおける眼表面グライコカリックスバリアの変化」
本日、11時から発表が行われる。
4. 日本角膜学会優秀ポスター賞 大鹿理事長(下村理事)
昨年同様、第一次審査は評議員を3組に分けて行います。
第二次審査は評議員全員で行います。よろしくお願ひいたします。
来年は学術担当理事がそれぞれ専門分野を考えてグループ分けする。
5. 角膜カンファレンス2017 学会報告 大鹿理事長(内尾英一会長)
参加者が959名、招待講演、シンポジウム3つ、アスレチックはバブルサッカーであった。
会計は4000万円以上かかっている。懇親会では吉村作治先生の講演があった。
6. 角膜カンファレンス2018 学会について 近間泰一郎会長
名称：第42回日本角膜学会総会・第34回日本角膜移植学会
日時：2018年2月15日(木)～2月17日(土)
会場：グランドプリンスホテル広島
会長：近間泰一郎(広島大学)
事前登録は754名、230題の演題登録があった。
特別講演は広島大学の学長をお願いしている。再生医療では日本で初の保険診療をされた先生です。招待講演は恩師のKao先生。角膜の発生をしっかりと学んで、もう一度考えよう。シンポジウムは再生医療と光再生である。一会場ホテルから出ないで済むようにした。
スライドが3面あるので、英語スライド、日本語スライド、両方出すことができる。
レクリエーションは温泉卓球で、全組同時に行うので1時間にし、口演の数を増やした。
7. 角膜カンファレンス2019 学会について 外園千恵会長
名称：第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会
日時：2019年2月7日(木)～9日(土)
会場：ウエスティン都ホテル京都
会長：外園千恵(京都府立医科大学)
招待講演はまだ返事が来ていないので、決まり次第お知らせする。
8. 角膜カンファレンス2020 学会について 大鹿理事長(山上 聡会長)
名称：第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会
日時：2020年2月26日(水)～28日(金)
会場：東京ドームホテル
会長：山上聡(日本大学)
9. ウェブサイト関連 前田理事
ホームページは充実してきている。スマートフォン、タブレットにも対応している。
コンテンツを皆様に作成していただいた病気の説明だが、患者さんがみられないように会員頁に移動した。パスワードがわからない会員のために、年次報告書などで問合せをうながす。
1社スポンサーを増やした。
各理事の英語挨拶は自分で作れば無料だが、翻訳をしてもらうと結構高い。
10. 各種委員会
・羊膜委員会：大橋裕一、木下 茂、澤 充、篠崎尚史、島崎 潤、
外園千恵、西田幸二
社会保険担当者(堀理事)が入るようにして、メンバーをかえる。

・羊膜移植バンクについて

カテゴリー I は京都府立医科大学、愛媛大学、東京歯科大学市川総合病院、富山大学、長崎大学、久留米大学

カテゴリー II はけいゆう病院、大阪大学、秋田大学

・羊膜移植講習会

2018年2月17日(土) 日本角膜学会

2018年10月14日(日) 日本臨床眼科学会

講師を評議員の先生方をお願いしたい。また、カテゴリー I の施設の人にも頼むことにする。

・外保連委員

堀 裕一(実務)、小林 顕(手術)、高村悦子(処置)、

山田昌和(検査)、麻酔担当:なし

次回の保険適応に関してアンケートをとりたいと思う。

マイボグラフィの診療ガイドラインを作ってはどうか。

11. 各ワーキンググループの進捗状況

・TS-1多施設スタディワーキンググループについて

井上理事(山田委員)

他科から症例をまわしてもらうため集まりが悪いので、エントリーを今年の3月まで1年延長した。来年の3月まで追跡する予定である。

TS-1と5FUの涙液濃度の測定方法をまとめたものを投稿している。

12. 日本角膜学会年次報告書の発行 井上理事

今年はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。学会までに出来上がった。

13. 角膜カンファレンスアイバンクセッション担当者

角膜学会からは内野裕一先生(慶應義塾大学)、佐竹良之先生(東京歯科大学)をお願いした。

14. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査

角膜学会からは土至田 宏先生(順天堂大学静岡病院)、高 静花先生(大阪大学)をお願いした。

II. 協議事項

1. 2018年度予算 大橋理事

収入:会費は昨年の歳入と同様の額にした。

支出:担当校への補助を200万円に増額、調査研究費も300万円にする。

印刷費は2017年度と同様100万円に、学術奨励賞は一人20万円にする。

2018年は選挙がある。ホームページは300万円に増額し、充実を図る。

参加登録費を昨年上げてもらったので助かっている。

2. 評議員・理事・名誉会員について 大鹿理事長

評議員の定年はなしで、理事の定年と名誉会員規定を設ける。(アンダーラインが変更部分)

会則の変更

第3章 会員

第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は65歳以上の会員で、理事長経験あるいは10年以上の理事歴を有し、本人が承諾した者。名誉会員は評議員会に参加して意見を述べることができるが、議決には関与できない。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

第5章 役員(理事および監事)

第14条 理事は選任年の1月1日に65歳未満である者で、評議員の中から投票によって8名選出される。

3. 2021年学会について

愛媛大学の白石 敦先生が立候補している。

2018年第1回日本角膜学会評議員会議事録

開催日時: 2018年2月15日(木)7:30~8:30

場 所: グランドプリンスホテル広島 2F シーショア

出席者: 天野史郎、稲富 勉、井上幸次、白井智彦、大鹿哲郎、大橋裕一、加治優一、木下 茂、小泉範子、高 静花、小林 顕、雑賀司珠也、佐々木香る、澤 充、島崎 潤、榛村重人、外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、西田幸二、堀 裕一、前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、横井則彦、渡辺 仁
事務局 井上聖子、三宅啓子 計29名

欠 席 者: 清水公也、下村嘉一、坪田一男 計3名

議 長: 大鹿理事長

議 題:

I. 報告事項

1.~7. は理事会と同様

8. 角膜カンファランス2020 学会について 山上 聡会長
名称: 第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会
日時: 2020年2月26日(水)~28日(金)
会場: 東京ドームホテル
会長: 山上聡(日本大学)
東京オリンピックの年のため、水曜日から金曜日となる。
APAは3月にニュージーランドで行われる。
後日、2020年2月27日(木)~29日(土)に変更になった旨の報告があった。

9.~10. は理事会と同様

11. 各ワーキンググループの進捗状況
・TS-1多施設スタディワーキンググループについて 山田評議員
杏林大学では涙液中のTS-1と5FUの濃度を測っている。濃度を測る方法を確立したということをJJOに投稿している。
他科から症例を紹介してもらうため集まりが悪いので、エントリーを今年の3月まで1年延長した。来年の3月まで経過をみる予定である。 井上理事
ワーキンググループのアイデアがありましたら皆様から募集いたします。

12.~14. は理事会と同様

15. Scientific Meeting of Asia Cornea Society 2020について 西田評議員
10年前に京都で木下先生が行った。来年2020年11月27~29日に日本で行われることになった。

16. その他

・スティーブンスジョンソン症候群の輪部コンタクトレンズが保険収載になった。
厚生労働省の研究班で急性期のみでなく、慢性期でも申請が認められると思う。

II. 協議事項

1. 2018年度予算 大橋理事
収入: 昨年と同様の額にした。
支出: 担当校への補助を200万円、調査研究費を300万円にし、保険収載を目指す検査、診断などの研究に使いたい。マイボグラフィ、波面センサー、実用視力のエビデンスを調べたい。前眼部三次元OCTの適応拡大にも使いたい。学術奨励賞副賞を倍増する。ホームページは難病のレジストレーションも検討する。
角膜学会会員から広くアイデアを求めるとよい。
難病の研究班で難病のレジストリを作っている。レッドキャップEDCのシステムを日本眼科学会のシステムと合わせられないか。メーリングリストで情報の共有をしたい。無虹彩、前眼部形成不全のレジストリを検討。

2. は理事会と同様

3. 2021年学会について
愛媛大学の白石 敦先生に決まった。

4. その他

・レクリエーションについて
口演数が全体の1/4くらいである。海外での日本のプレゼンテーションがあまりよくない。
40%くらいを口演にできないか。研究内容は優れているのだからプレゼンテーションをよくしていただきたい。
・下部組織の位置づけを明確にしてほしい。
ドライアイ研究会
成果物を出すときなどもう少し明確にしてほしい。
円錐角膜研究会
立ち上げのときに評議員会で議論したものは学会の研究組織となる。
難病は日本眼科学会から角膜学会に降りてきた研究である。
・輪部支持型コンタクトレンズが4月から保険収載になった。療養費の支給が決まった。金額は未定である。
・スティーブンスジョンソン症候群が特定疾患になっている。急性期の病理組織が診断基準の必須であったので、発症の新しい人しか申請の対象にならなかったが、慢性期でも瘢痕化があれば認められる。
・保険について
前眼部三次元 月1回 狭隅角、角膜移植術前後のみである。
羊膜移植 10,000点になった。
涙道内視鏡 6,400点
・4月から臨床研究法律が施行される。日本眼科学会でフォーマットを作る予定である。

2017年歳入歳出決算報告書(角膜)

[自2017年1月1日至2017年12月31日]

歳入	単位(円)		
科目	予算額	歳入額	予算に比し増減
年会費	11,500,000	11,015,000	-485,000
法人会員会費	1,050,000	1,050,000	0
H P 広告料	600,000	800,000	+200,000
雑収入	20,000	21,870	+1,870
利息	2,000	798	-1,202
歳入小計	13,172,000	12,887,668	-284,332
前年度繰越金	8,079,088	8,079,088	0
歳入合計	21,251,088	20,966,756	-284,332

歳出	単位(円)		
科目	予算額	歳出額	予算に比し増減
担当校へ補助	700,000	700,000	0
調査研究費	2,000,000	1,200,000	-800,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,500,000	854,672	-645,328
会議費	500,000	352,854	-147,146
学術奨励賞	500,000	394,132	-105,868
消耗品費	200,000	111,098	-88,902
通信・発送費	300,000	356,263	+56,263
旅費	600,000	350,756	-249,244
雑費	150,000	129,753	-20,247
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	0	0	0
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,335,000	1,334,880	-120
羊膜移植講習会	700,000	780,000	+80,000
予備費	400,000	0	-400,000
支出小計	11,221,000	8,900,408	-2,320,592
次年度繰越金	10,030,088	12,066,348	+2,036,260
支出合計	21,251,088	20,966,756	-284,332

日本角膜学会 2018年度予算案

歳入	単位(円)		
科目	2017年度 予算額	2018年度 予算額	差額
年会費	11,500,000	11,000,000	-500,000
法人会員会費	1,050,000	1,000,000	-50,000
H P 広告料	600,000	800,000	+200,000
雑収入	20,000	20,000	0
利息	2,000	1,000	-1,000
歳入小計	13,172,000	12,821,000	-351,000
前年度繰越金	8,079,088	12,066,348	+3,987,260
歳入合計	21,251,088	24,887,348	+3,636,260

歳出	単位(円)		
科目	2017年度 予算額	2018年度 予算額	差額
担当校へ補助	700,000	2,000,000	+1,300,000
調査研究費	2,000,000	3,000,000	+1,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,500,000	1,000,000	-500,000
会議費	500,000	500,000	0
学術奨励賞	500,000	500,000	0
消耗品費	200,000	200,000	0
通信・発送費	300,000	300,000	0
旅費	600,000	600,000	0
雑費	150,000	150,000	0
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	0	400,000	+400,000
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,335,000	3,000,000	+1,665,000
羊膜移植講習会	700,000	700,000	0
予備費	400,000	400,000	0
支出小計	11,221,000	15,086,000	+3,865,000
次年度繰越金	10,030,088	9,801,348	-228,740
支出合計	21,251,088	24,887,348	+3,636,260

